

あばっさ

Vol. 11
アウラ語で北の精霊



HOW TO HELP

<年会費>大人: ¥5,000 18歳未満: ¥3,000

・郵便振替 00140-3-144187 熱帯森林保護団体

* 通信欄には「会費」または「寄付」とご明記ください。

・三井住友銀行 東京中央支店
(普)7066247 熱帯森林保護団体

* 銀行からお振込の方は、
お名前とご連絡先を別途必ず当団体までお知らせください。

特定非営利活動法人
熱帯森林保護団体

Rainforest Foundation Japan

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20

TEL : 03-5481-1912 FAX : 03-5481-1913

xingu@rainforestjp.com www.rainforestjp.com



2014年3月22日掲載 (毎日新聞)



2014年3月18日掲載 (毎日新聞)

毎日地球未来賞 受賞者

宮島にアマゾンがやってくる…再び… RFJひろしま代表 松岡 敏子

忘れられない思い出がある。2007年5月奈良へ向うラオーニを見送る広島駅ホームで、通訳の下郷さとみさんが突然私に振った。「最後に、ラオーニに何か伝えたいことはありませんか？」

私は「これから広島でアマゾンのことやラオーニのことを伝えていきます」とつい答えてしまっていた。正直これは少々リップサービスで、ラオーニに見透かされているのではないかとドキマギしたがラオーニは微笑むわけでもなく、「メイクムレン (それはよいことだ)」と私に返してくれた。

ラオーニは本当に不思議な人であった。アマゾンのジャングルの奥地で、私たちから見れば原始的な生活をしてきたが、30代で初めて文明と接触し、それからというもの怒涛の人生を歩まざるを得なくなった。一貫してインディオの存続と森の保護を訴え戦ってきた戦士は、さぞかし眼光するどく近寄りたいたい人なのだろうと想像していたら、大きな山のような存在感で、ほっとするような人を包み込むような暖かさを感じる人だった。

ラオーニに出会うと、人は人生が変わる・ら・し・い・・・・

私が変われたかどうか・・・ラオーニとの約束をちゃんと果たしているかどうかはわからないけれど、私はアマゾンに行ったこともなくせに・・・あれから幾度多くの人にアマゾンやラオーニのことを話しただろうか・・・

そのラオーニが10月、再び広島にやってくる!!なんと奇跡的なことだろう!!

アマゾンの現状は相変わらず厳しく、長老としてリーダーとしてのラオーニの背負うものの大きさは計り知れない。懐かしい宮島で、今度はゆっくりと時を過ごしてもらうことができたら何よりだと思う。

広島でのおおまかな予定を記します。

* 長老ラオーニ・カヤボ族青年インディオ来広に伴うイベント予定 *

- ① 10月 3日(金)～7日(火)
アマゾンインディオ工芸品展示会 (於) てんぐギャラリー
- ② 10月16日(木)～20日(月)
長老ラオーニ・カヤボ族青年インディオ来広
・17日(金)ラオーニ講演会 (於) 広島修道大学
・18日(土)ラオーニ講演会 (於) 広島経済大学宮島セミナーハウス成風館
・19日(日)カヤボ族青年との交流会 (於) 宮島 大聖院
- ③ 10月20日(月)
ラオーニ歓迎レセプション (於) 広島アークホテル

今回のイベントに際しては、宮島大聖院、広島日伯協会、広島修道大学、広島経済大学のご協力と広島国際ソロプチミスト・マツダ財団市民活動支援の援助をいただいています。関係各位の皆さまのご尽力に感謝いたします。

現在スタッフ一同、わくわくと10月に向けて準備をしています。皆さま方の更なるご協力とご支援をいただけますよう心からお願い申し上げます。



宮島にて 2007年



広島平和記念公園にて 2007年

アマゾン…今まで私の人生に、決して登場する事はありませんでした、6年前までは…。

南研子さんと初めてお会いしたのは、とある私塾の講師と塾生としてでした。正直なところ、私はアマゾンというより、研子さんに興味を抱き、何回もお会いする度に、そのユニークでパワフル、そして限りなく実は繊細でホットなハートの持ち主、そのお人柄と生き様に魅せられてしまいました。そして研子さんを通してアマゾンの現状を知りました。

地球の反対側で起こっている事は、日本に暮らす私達の生活と深い繋がりがあある事。

地球の酸素の約1/4を生み出しているアマゾンの熱帯雨林。

そこは地球上の生物種の約半分が棲息しているといわれる「種の宝庫」。

しかし年々開発の波が押し寄せ、静岡県面積の2倍以上が失われている。

さらに熱帯雨林の動植物とそこに暮らす先住民族の命を脅かしている。

等々、恐ろしい事が起こっています。

この私達の母なる美しい地球を次世代の子ども達にも繋いで行くことが出来る様に、今を生きる私達は、今出来る事をしたいと思いました。

そこで、この度「静岡支部」を立ち上げました！（実は、南研子ファンクラブ?!）

拙いながらも、研子応援団として、私達自身も、この活動を通し、命イキイキ心ワクワク思いサラサラ、楽しく生かし愛たいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します！

そして、なっなんと今年は、RFJ本部25周年特別企画として、90歳を当に超えているであろうカヤボ族の長老ラオーニ氏と、青年インディオリーダー2名がアマゾンから来日され、静岡にもいらっしやる事となりました！

歩く神社?!とも呼ばれているラオーニ氏。今もアマゾンからのメッセージを携えて世界を飛び回り、先進国に住む我々に警告を発し続けています。私達文明人と違い、お金や物や時間に振り回されないこの世界では、自殺も鬱病も認知症も殺人も存在しないそうです。何か、おかしいです、私達?! 地球は繋がっているのに…。

本来私達も持っていたであろう遠い過去に置いてきた、研ぎ澄まされた感性で、静岡に！私達に！何らかのメッセージを投げかけて下さる事でしょう！

さあ、貴方も10月21日～24日静岡でアマゾンの風を感じにいらっしやいませんか? きっと、貴方の人生が本当の豊かさで輝きだす事でしょう！

『 森がなくなればインディオも死ぬ。

でもお前たちも滅びることを忘れてはならない。

人間はちっとも偉くない。森や川、空や大地の声に耳を傾けよ。

その全部に精霊が宿り、たくさんの事を教えてくれて、それに従う。

人間の都合だけで判断することは間違っている。お前たちの社会は目の

事しか考えず目に見えるものしか信じない。

byラオーニ 』

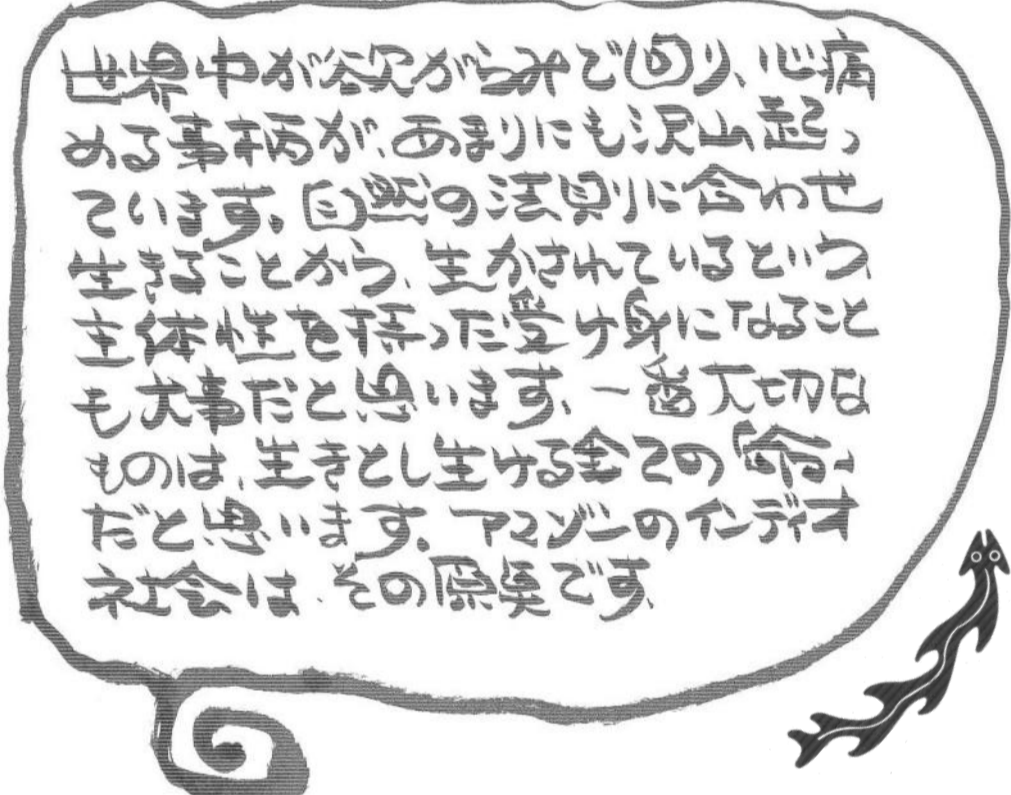
偉大なるシャーマン・ラオーニ。今年95歳になっているだろうといわれていますが、その肉体は衰えを知りません。当団体の代表である南研子氏の話聞いても、彼女がラオーニに出会われた頃と外見はほとんど変わっていないような印象を受けます。

当団体が支援している地域には、6000種を超える薬用植物が生息しているといわれています。「今、その貴重な植物が危ない!!」私は数年前、南氏からその話を聞きました。その時から現在に至るこの短い間で、「この宝の地域は無くなってしまふのだろうか」と寒気がしました。私は薬剤師という仕事を生業にしています。その為、一般の方たちより少しは薬用植物とのご縁は深いと思います。4年の月日をかけて生薬を学び、漢方を学びました。しかし、現在ではその学びのほとんどが忘却の彼方です。

ところが、シャーマン・ラオーニは森の中で6000種の植物の生えている場所、効能・効果が頭の中に入っているということです。これだけでもすごいことであると私は尊敬してしまいます。コンピューターや色々な文明の利器に頼り切っている私たちは、「覚えても忘れてしまうから」と思い、すぐに忘れていってしまうのではないのでしょうか。

個人的な話ですが、私はポピュラーな生薬が体に合いません。服用すると数時間で体調を壊してしまいます。その度に、シャーマン・ラオーニが私のこの姿を見たら、「あなたにはこの植物は合わない。食べてはいけないよ」と言うのではないだろうかと思ってしまう。

ラオーニとは初めて会うこととなりますが、色々な期待をしているのと同時に、ラオーニを迎えられるのを嬉しく思っています。



2013年会計報告

2013年1月1日～2013年12月31日

<収入の部>

2012年繰越金	¥ 8,832,004
年会費	¥ 2,800,000
寄付金(個人)	¥ 7,055,581
寄付金(企業・団体)	¥ 2,118,549
物販費	¥ 654,090
助成金	¥ 6,756,000
(イオン環境財団/エキスパートグループ/セディナ地球にやさしいカード/連合/内田エネルギー科学振興財団)	
利息	¥ 1,213
計	¥ 28,217,437

<支出の部>

現地支援金	¥ 9,958,234
他団体賛同・支援金	¥ 66,080
役員費	¥ 4,360,000
家賃	¥ 2,400,000
通信費(国内/国際電話、FAX、切手、送料)	¥ 786,259
コピー機、FAX レンタル料	¥ 298,522
消耗品、事務用品	¥ 195,202
資料作成費	¥ 74,200
外注費(販売用書籍、販売物等製作費)	¥ 197,161
交通費、宿泊費	¥ 534,840
会議費	¥ 398,988
備品費	¥ 185,628
雑費	¥ 84,569
銀行/振込/両替手数料	¥ 420
税金	¥ 37,500
次期繰越金	¥ 8,639,834
計	¥ 28,217,437

2013年RFJ事業報告書

2013年支援金計・・・9,958,234円

- 熱帯林保全事業・・・2,360,497円
熱帯林の保全の一環として、森林の再生と活性化を目的としている養蜂事業を実施した。この事業は3年が過ぎ、支援対象7集落に着実に成果が表れている。主に養蜂器材(防護服、手袋、ブーツ、蜂箱、巣枠、噴霧器、遠心分離機、蜜ろう等の備品)及びそれらの運搬費の経費が含まれる。昨年度から新たな養蜂技術専門家が各集落へ年3回の視察をしているが、先住民たちととても良い関係を築き、先住民の事業担当者は段階に応じて技術を習得している。今年度の視察での深刻な問題として、異常気象がある。すでに過度の森林伐採による森林火災、河の水位の低下、獲物や魚の減少は頻発しているようだが、今回は突風による被害が相次いで報告された。日本からブラジル、さらにその奥地の先住民集落は遠く事業には多くの困難があるが、根気強く事業を継続していく。
- 経済自立支援事業・・・2,881,642円
養蜂事業によって採集される蜂蜜は、段階的な貨幣制度を導入する手段として養蜂事業資金の一部を経済自立支援として計上している。養蜂事業のうち、養蜂技術専門家、アシスタント先住民の役員費、視察全体の経費、蜂蜜容器やボトルなどの消耗品といった経費が含まれる。養蜂技術専門家によれば、2014年度には支援対象7集落で合計500キロの蜂蜜が見込まれるという前向きな報告を受けた。また、昨年度の視察において女性たちからの要望を具体化し、伝統的作物の復興とコミュニティの女性で管理する畑事業が開始された。収穫は来年度になるが、収穫物は集落内の州政府による学校の給食の材料として販売することで、女性たちが工芸品の材料や緊急医療費として活用し、経済的自立の一助とすることが目的である。今後、森林伐採による先住民集落での自然環境の変化、状況の悪化は必須なので、安定的な蜂蜜の生産や市場と流通の確保も視野に入れた経済的自立のための養蜂事業は大変重要であり、長年に渡り継続していく考えである。
- 教育事業・・・330,339円
カマユラ族の集落にある学校へ文房具や教材を支援した。
- 医療支援事業・・・1,968,998円
支援対象地域の各部族に基本的な医薬品とサプリメントを購入し、配布した。また、カヤボ族リーダーの緊急医療支援として、手術にかかる医療費、町までの輸送支援を実施した。
- 現地視察諸経費・・・2,166,346円
ブラジル国内交通費、滞在費。現地で調達した支援物資、先住民集落での滞在に必要なキャンプ用品などの備品費。
- 雑費・・・160,023円
海外送金にかかる銀行手数料、事務経費及び当団体の現地に持参する食材等の経費。